



Le Monde de Keishin

vol. **3**
2015

歩み続ける慶進生が 「慶進の道」を切り拓く

CONTENTS

- 2 コラム「慶進の道」
- 3 1st Stage
宿泊研修から見える慶進生の道
- 4 2nd Stage 慶進生としてこれから
La Classe de Keishin
- 5 3rd Stage 萩往還を歩く
- 6 生徒会長が語る一里塚
- 8 教科を究める
- 9 教科のコラム
- 10 同窓生
- 12 La Photo de Keishin
大学合格者推移
小さな本箱



慶進生が踏み固めた小道 それはやがて慶進の街道となり 慶進の世界「Le Monde de KS」を拡げてゆく

冬空の下、山間の国道で車を走らせながらラジオを聴いていました。特に聴きたい放送があったわけではありません。旅の暇つぶしにと聴いていました。そうはいってもしばらく聴くと放送の太枠は掴めてくるもので、オーケストラの指揮者の西本智実さんをゲストに迎えた対談でした。彼女は日本の大学を出た後ロシアで学び、二〇一三年にアジア人として初めてバチカンのサン・ピエトロ大聖堂でタクトを振ったようです。

そんな風に聞き流していると彼女から胸に突き刺さる言葉が発せられました。それは「道は自分でつくるもの」という言葉です。何ともない言い古されたフレーズです。しかし、山間の国道を走る車中でその言葉が胸に残りました。「誰かが作らねば道はないのだ」と。

表紙絵に描かれたコロンブスも道を作った人物の一人です。

情熱と夢をもってコロンブスは大洋に向けて帆を張りました。乗組員を励ましたながら、嵐に身をさらしながら、航海を続けました。そして、新大陸に辿り着いたのです。

表紙絵はコロンブスが統治し、今では世界遺産に登録されているサントドミンゴの植民都市です。新大陸とは知らずに統治をしたコロンブスでしたが、その統治は思っていたようにはいかず、やがて失意のうちに本國スペインに召還されてしまいます。しかし、彼の歩んだ道に続く者が世界を拡げ、世界の一体化をもたらす一助となったのです。

慶進生もコロンブスのような情熱と夢を持ち合わせています。

山口県で初めての6年中高一貫教育を一期生が踏み分けて道を作りました。その道を後輩達が踏み固め、延ばし、十一期生が足を踏み入れました。ここまでで作られた「慶進の道」はどんな道であったのか、本号では「慶進の世界」(Le Monde de Keishin)にめぐらされた「慶進の道」をお伝えします。また、後に続く慶進生が「慶進の道」を舗装し、繋ぎ「慶進の世界」を拡げるための道標となることを願っています。

6年中高一貫教育 英知を尽くし、未来を切り拓く。

慶進では生涯にわたって役立つ学力を身につけるために、6年間で2・2・2の3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知ることから始まり、生徒たちが主体的に学習に取り組み、学内外の様々な体験活動で、豊かな人間性と、ともに生きる力を育み、次世代のリーダーとなる人材を育てます。

1st Stage	2nd Stage	3rd Stage
基礎学力養成期	実力充実期	発展応用期
中学1年生 中学2年生	中学3年生 高校1年生	高校2年生 高校3年生



宿泊研修から見える慶進生の道

絆が深まった宿泊研修

11期生 山本 晃成（中一）



入学して一週間が経った頃、最初の大きな行事である徳地少年自然の家で二泊三日の「宿泊研修」に臨みました。目的は集団生活を通して相互の理解を深め、親睦を図り、慶進生として六年間の学校生活を送る上で必要な自立的な生活態度を形成することです。

初日は、オリエンテーリングや学習指導、二日目は、TAP（徳地教育プログラム）や集団行動、夜にはキャンドルサービス、最終日は、退所式となかなかハードスケジュールでしたが無事に終えることができました。

始めの頃はぎこちなかったクラスメイトとの関係も宿泊研修を過ごすうちに「知らない人」から「仲間」

に変わっていききました。自分のことを少しずつ話せるようになり相手のことを知ることができました。心と心で会話できるまではいかなくなりましたが、出会った時よりは、お互いの気持ちになんとかなくわかるようになってきた感じがしました。

宿泊研修を通してこれらの学校生活を過ごすための心構えを学び、先生方、仲間とのふれあいの場を経験することで、不安がなくなり自信を持つて三日間過ごすことができました。人との出会いと関わりを大切にしながら仲間との絆を深めていきたいです。

夢への第一歩を

11期生 立石 真之（中一）



入学当初、僕の人間関係の輪は非常に小さなものでした。同じ小学校にいた人はいないので、知っている人と言えれば同じ塾に通っていた数名でした。そんな中、すぐに宿泊研修という行事がありました。この研修は、徳地少年自然の家で中学一年生が二泊三日で様々な事を体験するというもので、本当にビックリするくらい入学式からあつという間のことでした。主な内容は、TAP（徳地教育プログラム）とオリエンテーリング。TAPでは板を使ったむかで競争などを皆で楽しみました。また、オリエンテーリングでは森の中にある番号札を班ごとに見つけて競い合いました。どちらも「協力」というテーマが入っていて、今まで知

らなかつた人とも仲良くなれるとても良い機会で、一気に人間関係の輪が広がりました。

さらに、自分の志を述べるキャンドルサービスもありました。以前、入学してすぐの対面式で夢を語ることがありましたが、その時は、ぼんやりとした、半歩ぐらいだったのではと思います。しかし、この宿泊研修という行事を通して、はつきりとした目標も定まりました。また、それを旗という形にして残したので何かに行き詰っても振り返ることが出来ます。

僕はようやく夢への第一歩を踏み出したんだと思います。そして今も、様々な事に挑戦し、知識を増やしています。



慶進生としてこれから

生徒会長 9期生

福井 太一 (中二)



「私たちの六年後は私たちが創る」という言葉が慶進にはありますが、僕は中学三年生なので、僕からすれば「三年後の自分をどこまで伸ばせるか」、そして「生徒会長として、どこまで慶進を発展させていけるか」という二つが重要になってくると思います。

では、まず三年後の自分を伸ばすためにはどうしたらよいのでしょうか。この三年後の自分という中にはもちろん学習面のことも含まれていると思います。他にも社会的な面もあるのではないのでしょうか。僕にはまだ、社会というものはよく分かりません。しかし、慶進もひとつの社会であり、さまざまな行事を通じて先生や先輩とのコミュニケーションのとり方など、「社会」というものを学んでいきたい

と思います。

次に、慶進を発展させていくということですが、中学一年・二年の時は学校を動かしていくというよりは先生や先輩に教えてもらうということの方が多かったように思います。しかし、僕ももう中学三年生です。後輩にバトンを渡していく時期ですが、ただバトンを渡すのでは何も変わりません。何か残していかなくても何も発展しない。生徒会活動をしている僕としては、なおさらそう思います。

今は中学生としてわからないこと、悩むことがあれば先輩に相談することもできますが、これから高

校生になるとそういうわけにはいかなくなっていくと思います。学年が上がれば上がるほど相談できる先輩も減ってきますし、中学校だけではなく学校全体を発展させる力が求められるようになります。そのためにも、今こそ力を養わなくてはなりません。そして、その力は社会に出てからも重要になってくると思います。これまでもよりも素晴らしい慶進を創っていくために、慶進生としてこれからの三年間にやるべきことはたくさんあります。先生方や先輩にいろいろなることを教わりながら、誇りある生徒になりたいと思います。

La Classe de Keishin

川尻先生の文法 古川先生の現代文

慶進の国語の授業は、とても面白く、分かりやすいです。

まず、川尻先生の文法の授業では、毎回穴埋め形式のプリントが配られるので、重要な語句が覚えやすく、また、それについての説明も丁寧なため、テスト勉強も効率的に行うことができます。さらに、問題プリントも配られるので、授業で習ったことが身につけているか確認できると同時に、自分が分かっているか把握できます。授業の最後には昔の物語や百人一首の暗唱タイムがあり、今は百人一首大会に向けて、みんなで練習を頑張っています。難しい言葉も多いのですが、暗唱用のプリントに読み仮名が書かれているので、スムーズに覚えることができます。

次に、古川先生の現代文の授業では、教科書の文章について要点をまとめ、班ごとに話し合いをすることがあります。自分の意見をみんなに伝えることでアドバイスをもらったり、他の人の意見を聞くことで新たなことが学べたりできるので、とても勉強になります。また、「おさめるポイント」という大切なこととめを教えてもらえるので、問題の解き方のコツなどがつかめます。

授業以外で一番印象に残っているのは、宿題で取り組んだ『本のポップ作り』です。宿題とは思えないくらい楽しくて、実際に書店に展示されたことも、後日新聞社の方からインタビューを受けたことも、とても貴重な体験だったと、今、改めて感じています。

文法の授業も、現代文の授業も、楽しみなが学習することができ、私は本当に嬉しく思います。そして、川尻先生と古川先生にはとても感謝しています。

中学校11期生 乾 桜葉(中二)





萩往還を歩く

平成二十六年五月二日、7期生(高二)と10期生(中二)が山口から萩までの萩往還の約26kmを歩きました。

事前アンケートで、7期生と10期生は自分の将来の夢や興味関心によって、いくつかの班に分けられました。また、事前交流では緊張した表情で出会った7期生と10期生でしたが、当日は道中の各チェックポイントでトークテーマを楽しそうに語りながら歩きました。

中学生と高校生で一体何を語らったのでしょうか。この中高一貫ならではの行事について、7期生田中智大くん(高二)と10期生奥土康太君(中二)に聞いてみました。

五月に中学二年生と高校二年生が一緒に行った萩往還はどうでしたか？

田中 きつかったです。

田中君は中学生のときに行ったのでは？

田中 前回は、途中から大雨になり、中止になりました。

奥土君は初めての萩往還はどうでしたか？

奥土 次の日筋肉痛になり、きつかったです。

中学二年生は一泊二日でしたよね？

奥土 研修施設に宿泊でした。その時に座禅の体験をし、翌日は萩博物館に行き、化石

があつて興奮しました。

今回、中学二年生と高校二年生が同じ班になって行動をしました。どのような班分けになっていましたか？

田中 事前にアンケートがあり、その回答に基づいて、関心であったり、将来の夢が近い先輩と後輩が同じ班になっていったと思います。

ちなみに、二人は同じ班でしたか？

田中・奥土 同じ班でした。

班分けが決まって、事前に何か交流などはありましたか？

田中 最初に、校内で班のメンバーが集まるということをし

ました。説明会の時に初対面だと、萩往還のときも話ができるかわからないので、まずは交流会で少し仲を深めた状態で萩往還に行きました。

実際一緒に歩いてみてどうでしたか？

田中 楽しかったです。ただ、一度行ったことのある僕たちですが、実際は途中で中止になり最後まで歩いていないので、道が分からなくて苦労しました。僕たちの班は先頭の方を歩いていたのですが、ゴールがどこかわからなくて、通り過ぎてダッシュで引き返すというハプニングもありました。

中学生と歩いてみてどうでしたか？

田中 僕たちが中二の頃より今の中学生は素直で、体力があると感じました。結構険しい道のりでしたが、高二の方が運動不足で疲れてしまい、中二の方がどんどん引つ張っていつてくれる感じでした。

中学生から見て高校生はどうでしたか？

奥土 話すことがすごいなあと、思いました。

どんな話をしましたか？

奥土 テーマがあつて、将来の

夢や学ぶ目標についてなどを話しました。

田中 チェックポイントがあつて、その場所ごとにテーマが書かれた紙をもらいそのテーマにそつて話をしながら歩きました。主に中学生から高校生に質問するというものでした。

その中で印象に残っているものは？

奥土 雑学の話が印象に残っています。

将来の夢の話は？

奥土 少しだけしました。ちなみに奥土君の将来の夢は？

奥土 その時は科学者です。今は理系の何かになりたいです。

田中君は？

田中 経済学部に行くことは決めているのですが、その後何を目指すかはまだ決まっています。

田中君から中学生にした話や、中学生から聞いた話はありませんか？

田中 僕たちがした話は、勉強を今からにしたほうがいいという話がありました。

あと、奥土君が理系のマニアッ

クの話が好きで、その話は聞きました。

テーマがあるのはいいですね。

田中 テーマも実行委員の人たちと先生方が決めて作ったものだと思います。

萩往還を歩いてみて、よかったと思うこと、学んだと思うことはありますか？

田中 苦しい中での集団行動なので、声を掛け合うということを学びました。

奥土 先輩と話して、勉強に

関していい刺激を受けました。今後頑張りたいこと、目指していきたい、道はありますか？

田中 まだ高二ですが、受験が近づいて来ているという実感があるので、まず勉強時間を安定して増やせるように頑張りたいです。



▲田中智大君(左)と奥土康太君(右)

生徒会長が語る一里塚



慶進中学校・高等学校は、11年という道程を歩もうとしています。平成16年に1期生が歩み始めた道は今、11期生が最後尾からその足跡を辿りながら舗装をしたり、新たな道を切り開いたりして歩んでいます。

そこで、ここまでの道程の一里塚を、各代の生徒会長に聞いてみました。

一期生
宇野 裕喜



初代生徒会長として、二つのことに留意して活動しました。一つは、初代という意味を考えて活動すること、二つ目は必ず自分の成長に繋げることで

一つ目は、ゼロからのスタート、自分の活動が校風を作るといふ誇りを持ち、生徒一人一人が最大限学校を楽しめる学校を作りたいという信念で活動しました。

実施した内容は、文化祭や体育祭など行事の全て、一から企画、実施しました。あの時、沢山の先生や保護者に助けていただき今も感謝しています。

二つ目は、試行錯誤しながらも失敗から学んだこととして、献身の心の大切さがあります。誰かのために活動することは必ず報われるとは限りませんが、最大限の生徒が楽しく中学生生活を過ごすために努力したことは、今の自衛隊での生活の中でも心の支えになっていきます。本当にあの時生徒会長をさせていただき光栄に思っています。

二期生
青木 連



まだ定まっていらない生徒会の仕事や行事を、一年目の成功と反省を踏まえて定めることに一年間最も力を入れました。

また、生徒会長は集会や行事などにおいて人前で話をする機会が多くあります。大学でも同じような機会が多くありますが、そんな時でも怖気づくことなく話せているのは生徒会の経験あってこそだと思えます。

三期生
正下 遥奈



私は、第3期生徒会長として、それまで先輩が一から作り上げてくださった行事をもとに、それをどうしていけばもっと盛り上げられるのか、もっと楽しんでもらえるのかというのを考えながら生徒会の仕事にあたりました。一年で大きな変化を起こすことは

難しかったです。ですが、クラスマッチで新しい競技を追加してみたり、負けてしまっても暇な時間ができないように工夫してみたりと色々ともがいた一年間だったなと思います。加えて、私は慶進中で初めて女子生徒会長となり、女子もリーダーとしてやっていけるといふところを後輩に見せられたら、そして後にたくさん女子が活躍してくれるといいなと考えながら、頑張っていたように感じます。また私は、二代目の会長が同じ部活の先輩で、キャプテンと生徒会長のどちらも頑張っておられる姿を見て、立候補を決め、自身もキャプテンと生徒会長の両方に取り組みましたが、四代目の会長もまた、同じソフトテニス部を頑張っている、生徒会長を頑張ってくれて、その姿勢が受け継がれていったことをと

でも嬉しく感じました。人前が苦手な私でしたが、生徒会長を務めたことを通じて、大きく成長できたなど感じました。とても有意義な一年間でした。

四期生 表 克拓



みんな何事にも一生懸命に取り組んでいました。慶進祭、スポーツフェスティバル、合唱、校歌斉唱等。ですが、慶進生として何か「私達はこんな活動をみんなで行っている」という活動が欲しかった。そこで、キャンプ集めという活動を高校生生徒会長と共に進めていったのですが継続できなかったのは心残りです。皆さんも何ができ



▶スポーツフェスティバル(二〇〇七年)

るか探してみてもいいでしょうか。

五期生 弘中 あや



私の代では、中央委員会を創設して生徒会の人数を増やし、月一回全校集会を開くことにしました。これらの活動によ

り、皆でよりよい慶進をつくるという雰囲気が強まったと思います。生徒会長を通して学んだことは仲間を信じて挑戦することの大切さです。よりよい慶進をつくることを可能にしたのは周りの仲間のおかげだったからです。

六期生 進士 勇太



僕は行事を今までとは違ったもの、より楽しめるものにすることを目指しました。

スポーツフェスティバルでは、小学校の運動会で行うような種目を取り入れられたり、慶進祭の中学校ステージではあるお題を

生徒会メンバーで演じ、それを当てもらうクイズをしたりしました。どれも好評で、新しい慶進を見せることができたと思います。

七期生 矢儀 丈博



私は現在高校生徒会に所属し、広報誌の編集を担当しています。

二年前所属していた中学校生徒会では、全ての資料をコンピューターで作り、管理していました。その中で培ったスキルは現在の活動に活かしていると思います。

また、前述の資料はなんと500枚以上(笑)。全て保存したUSBメモリは、今や僕の「御守」で

す。

八期生 関谷健太郎



僕は一年間生徒会長として仕事をしてきましたが、僕自身、特にこの仕事を頑張った、というのはいまありません。会長になる前年度に、副会長の仕事をしていたこともあり、先輩方が受け継いできた慶進中の行事をもっとよくして、次の後輩に引き継ごうといった気持ちで仕事をしていました。そういった行事を準備していく中で、中央委員や実行委員の人が本当にたくさんの方を全力で取り組んでくれたことが大きな手助けになったと思います。

教科を究める 理科

VOL.2

夏休みの終わりに、慶進中学校で実施される『学力診断テスト』。本校オリジナルのこのテストは、日頃の勉強の成果を知るための力試しになると、毎年、多くの小学生が挑戦してくれます。今回は、「理科」です。理科の川尻凌平先生に解説していただきます。じっくりと調べてください。



[2]以下の[1][II]の問いに答えなさい。

(平成26年8月実施)

[1]以下の先生と生徒の会話文を読んで、次の(1)~(3)の問いに答えなさい。

先生 : 今日「燃える」とはどういうことか考えていこう。
 A君 : 火を出すことですかね。
 Bさん : でも炭は火を出さずに長時間燃えているような気がするけど。
 A君 : うーん。
 Cさん : 紙に火をつけて燃やすと、紙がなくなるよね。だから、①重さが軽くなることが燃えるということではないかな？
 Bさん : なるほど、確かにそうだね。炭も燃えると重さが軽くなるよね。
 Cさん : そういえば、ガソリンもそうだよ。車が走るの、ガソリンを燃やして、そのエネルギーを動力に変えているからだけど、ガソリンも燃えるとなくなるよね。
 先生 : 面白い考え方だね。実は、今、みんなが話しているのは、②フロギストン説といわれるもので、17世紀中頃から1世紀以上に渡って信じられていた考え方なのだよ。

- (1) 下線部①の例として、会話文中では、紙とガソリン、炭があげられていますが、それ以外に、燃やした後に重さが軽くなる物質の例を1つ書きなさい。
- (2) 下線部②のフロギストン説とは次のうちいずれと考えられますか。最も適切なものを選び記号で答えなさい。
- ア 燃える物質は、空気中に含まれるフロギストンとくっつく性質があり、フロギストンとくっつくことが燃えるということである。
- イ 燃える物質にはフロギストンが含まれていて、それが放出されるのが燃えるということである。
- ウ 燃える物質にはフロギストンが含まれていて、それと空気中のある物質がくっつくことで、燃えるという現象が起きる。
- エ 燃える物質に含まれるある物質と、空気中に含まれるフロギストンがくっついて、燃えるという現象が起きる。
- (3) 現在では、フロギストン説は誤っていることが知られています。フロギストン説では説明できない「燃える」現象の例を1つ挙げなさい。

[II] 化学の実験では見る、触る、聞くなど、五感を利用することで重要な化学変化をおさえることができます。次の(4)~(6)の問いに答えなさい。

- (4) 試験管Aにアルミホイル片、試験管B にスチールウールを入れ、それぞれうすい塩酸を加えました。このとき、どちらの試験管でも同じいくつかの変化が起きました。共通で起きた変化を2つ答えなさい。
- (5) (4)の試験管Aの反応後の溶液を、蒸発皿に移し、ガスバーナーで加熱したとき、その蒸発皿ではどのような変化がみられますか。
- (6) アルミホイル片をこのような実験で用いるときに、反応がうまく進むために工夫するとよい点を1つ答えなさい。

解説

大問②は「ものの変化」についての問題です。物質が化学変化するとき、どのようなことが起きるかをきちんと理解できているかが重要となります。

(1)は文中の例を参考に、身近な物質などから挙げてもらうことになります。普段から理科に関する興味・関心を高めておくと、このような問題に対処しやすいでしょう。

(2)は「重さが軽くなる↓何か(フロギストン)が離れて無くなる」という考え方ができれば、それに当てはまるものを選ぶことで解答できます。ほかの選択肢は「何かがくっつく」という文になっています。フロギス

トンという見慣れないワードがありますが、文中から内容をしっかりと整理しましょう。

(3)は(1)で挙げたものとは逆になる例を挙げればよい問題です。酸素がくっつくことで重さが増えるというのが考えやすいでしょう。

(4)は金属を酸性の溶液(うすい塩酸)に入れることで起きる変化であり、実験の中から連想するのは難しいです。実験などで体験する、もしくは写真や映像でどのような変化をするか視覚的に理解すると印象に残ります。

(5)では(4)で反応した金属が形を変えて溶液の中に溶けています。見えなくなっているだけで、無くなっているわけではありません。加熱して溶液の水分がなくなると、溶けきれなくなっ出てきます。これは食塩水を加熱したときの様子と一緒にです。

【解答】(1)布(など) (2)イ (3)スチールウールは燃えると重さが重くなる。

(4)泡が発生する。それぞれの金属が溶ける。熱が発生する。(などから2つ)

(5)無色透明の液体から白色の光沢のない粉が出てくる。

(6)表面をみがいて使う。(細かくちぎって使う。など)

教科のコラム「数学の学習」

プリンというデザートをつくるとき、その生地となる牛乳と生クリームを強火で温めないのはなぜでしょう。強火だと一気に膜ができてしまい、せっかくの「なめらかな生地が台無しになってしまう」からです。さばの味噌煮というおかずをつくるとき、しょうがを入れるのはなぜでしょう。味噌による味つけをひきたてる一方で、さばという「魚の臭みを消すため」です。レシピさえ頭に入っていれば、誰だって「プリン」も、そして「さばの味噌煮」もつくることができます。しかし、牛乳を強火で温めない理由やしょうがを入れる理由を知っている人は、ただ単にその料理をつくることができるというだけでなく、そのことを他の似たような料理をつくるときや、あまり使ったことがない食材で料理をするときに活かすことが

できます。数学の学習についても同じことが言えます。数学を学習する上で大切なことの一つは、「公式を覚える」「解き方を暗記する」といった表面的なことではなく、「基礎をしっかりと理解する」ことです。別の言い方をすると、「公式」や「解き方」をはじめとする基本事項の深い理解、つまり「本質を捉える」ことです。では、本質を捉えるためにはどうすればよいのか。それは「なぜこう考えるのか」「なぜこの場合分けが必要なのか」「なぜこの公式をこの場面を使うのか」など、常に「なぜ」を意識して学習を積み重ねることです。もちろん時間はかかります。でも不思議なことに、類題(似たような料理)や、初見の問題(調理したことがない食材)にも、少しずつ手が動くようになっていきます。 数学科 笹川 剛

同窓生



数学科
岡藤朋宏先生

国語科
古川義郎先生

和田 隼輔 [前列左]
山口大学 医学部医学科

横井 一樹 [後列中央]
山口大学 医学部医学科

山田 城 [後列右]
山口大学 医学部医学科

平成25年度卒業

5期生の慶進

5期生の山田城君、横井一樹君、和田隼輔君が慶進中学校・高等学校に来てくれました。三人とも山口大学医学部医学科の一年生で、後期の授業が始まった忙しい時期にも関わらず、後輩のために自分達に少しでも役立つことがあればと時間を作ってくれました。

写真は会議室での一枚です。彼らが高校三年生のときに毎日のように入試対策の面接の練習を行った思い出の場所です。考え、悩み、自分の思いをしっかりと形にすることができたのも、様々な先生方や同級生とこの場所で討論したことが大きな要因となっていると思います。

私はこの5期生の63名と六年間の長い時間を共有してきました。幼い中学校一年生からスタートし、目に見えて成長していく彼らの様子を非常に嬉しく感じました。学力はもちろんのこと、常に、やればできる！という物事に取り掛かるときの心構えをしつかりと持つこと、当たり前のことを当たり前前に行うことの大切さ、他人の意見を聞くことができる素直さというこの3点をとにかく繰り返し伝えてきました。彼らはしっかりとその声かけに応えてくれて、これから先の進路についても確かな一歩を踏み出し、社会に出てから活躍していくための人間力もしっかりと身に付けてくれたと感じています。さらには、私自身が彼らの影響で大きく成長できたことに本当に感謝しています。

これから大学で多くのことを学び、社会に貢献できる貴重な人材としてしっかりと頑張ってくれと確信しています。また、周囲の人たちへの感謝を忘れず、人から信頼される人物になってくれることを期待し、慶進の後輩たちが誇りに思えるような先輩であって欲しいと願っています。

担任 岡藤 朋宏先生

久しぶりに帰ってきた慶進はどうですか？

山田 僕は、たまに部活のほうに顔を出しているのですが、校舎など変化があつて新鮮な感じはします。

和田 僕は卒業して初めて来たのですが、先生が全然変わつてないので相変わらず楽しそうだなという印象です。

横井 なつかしい顔をたくさん見かけると、高校時代を思い出しますが、今の中学生は関わりがなかったので、時が立つのは早いなあと思います。

和田くんは、岡藤先生や古川先生は変わっていないと言っていました、山田くんから見て二人の先生はどうですか？

山田 変わつてなさそうですが、歳をとつたので、体のほうが心配です。

横井くんは二人の先生を見てどうですか？

横井 全然お変わりなく、本当に昔を思い出します。

先生方から見て彼らはどうですか？

古川 和田くんが一番変わったと思いますね。

どの辺が？

古川 頭が(笑)※金髪

岡藤先生はどうですか？

岡藤 三人ともしつかりした感じが出てきたと思います。高校生のときはどこかあまちゃん的なところがありました、そこが抜けてしつかりしたのではないかなという雰囲気があります。

大学に進学して、生活や考え方、物の見かたに変化はありましたか？

横井 一番大きく変わったのは、人間関係です。高校時代よりも上下関係が厳しかったり、高校時代にはなかった広い範囲の友人や先輩ができたことです。それにより見聞が広がったり、新しい視野が生まれたりして変わりました。大学のほうが先輩後輩の関係が厳しいですか？

横井 そうですね。今まで意識していなかった部分を先輩からご指導していただき、気をつけることを学んだりして、そのあたりは厳しくなつた気がします。

慶進中学校・高等学校での

先輩後輩の関係はどうでしたか？

横井 上下関係がゆるかったわけではありませんが、一つ上の学年だと、割とフレンドリーな関係でしたが、大学ではそのあたりの区別は明確というか厳格になつたと思います。

和田くんはどうですか？

和田 僕は軟式テニス部に入部したのですが、やはり上下関係はかなり厳しいと感じました。仲良くなつた先輩でも一線を引くところは引かないと、他の先輩から「今のはやめたほうがいいぞ」と言われることがあります。

在学中の彼らは岡藤先生や古川先生に対しては一線越えてどんどんきてましたか？

岡藤 生徒のときもラインを見極めて攻めてきていましたよ。

古川 彼らは分を守るという点ではしつかりしていたと思います。

山田くんは大学に行つてみてどうですか？

山田 やはり、高校時代は部活と勉強ばかりをやっていた

ので、あまり友達と遊んだりとかはしていなかったのですが、大学に入学してからはいろいろな特徴を持った友達と関わるようになりました。

特に部活に入つてからは先輩方から色々学ぶことができ、そんな先輩に対して「人生の先輩」という印象が強、沢山のことを学んでいます。

大学で、「この人すごいな」と思った人はいましたか？

横井 なんでこんなに賢いのだろうと思う人はいます。医学科ににいるのに、すぐく運動神経がいい人もいます。世の中すごい人ばかりだなと思います。

今回のテーマは「道」です。慶進で過ごした六年間は君たち人生の「道」のひとつです、君たち5期生がいた六年間は慶進の「道」の途中ですが、六年間過ごした中で、慶進が変わつたと思つたことはありますか？

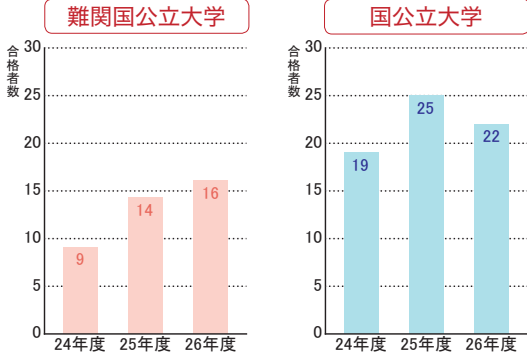
和田 大学受験に対する気合が変わつたと思います。僕らが中学校に入学したときは、中高一貫の一番上は高校二年生だったので、受験がど

んなものかまだいいまいちピンときていなかったのですが、年が経つにつれて受験に対する理解も深まり、僕たちが受験する頃には大学受験に必要なサポートも充実していたので、合格することができたのだと思います。

こういう話がでて、古川先生はどうですか？

古川 彼らだから一緒にできたこともあるし、僕たち自身がもつとこういうことを考えて欲しいという思いで、仕掛けや行事を作つてくれたのだと思います。5期生で一番大きかったというか、変わったと思うことは、セカンドステージファイナルなどで、自分の学習領域や進路をしっかりと考える機会を作つていくということを始め、たばかりでしたが、彼らはそれにしつかりと応えてくれました。ただ勉強だけでなく、仲間との関係や将来の夢に到達するために勉強だけでなく、こういうことも知っておかなければいけない、体験しておかなければいけない、彼ら自身が体現してくれたのだと思います。

大学合格者推移



平成26年度 **難関国立大学合格**

北海道大学 東京大学 大阪大学

九州大学 九州大学医学部医学科

山口大学医学部医学科 防衛医科大学校

国公立大医学部医学科 10名
(防衛医科大学校含む)

La photo de Keishin 情報処理室



本館2階に、パソコンを完備した情報実習室があります。ここでは、情報の授業や、放課後の駿台サテネット講座の受講に加え、生徒会の活動や、情報部の活動が行われ、生徒の行き来が絶えることはありません。そのような環境の中で、生徒たちは、いつの間にか、パソコンを操り、駆使する技を得ていきます。



第3回 小さな本箱

さて、図書の紹介コーナーということであるが、百田尚樹氏の「海賊とよばれた男」をご紹介したい。石油類の精製・販売を行う日本を代表する企業、出光興産の創業者である出光佐三氏。彼をモデルとした主人公、国岡鐵造(国岡商店社長)が、戦後の苦境のなかで、悪戦苦闘しつつも困難を乗り越え、商店を発展させていく。物語冒頭、日本国全体が敗戦の失意に沈むなか、「日本人がいるかぎり、日本が亡ぶはずはない。」という強い決意をもち、数々の苦難に立ち向かっていく。国内のみならず、海外の多くの石油業者と敵対するなかで、タブーとされていた

海賊とよばれた男

英語科 藤野 恭平先生のおすすめ

「人の役に立ちたいので、医者になりたい。」
このような生徒に何度か出会ったことがある。確かにもっともな意見であり、素晴らしい志である。しかし、果たして世の中には、「人の役に立たない仕事」はあるのだろうか。そう考えると、全ての仕事に、誰かの幸福の手助けをし、社会形成の一助となっている。そうしてお互いに助け合い、我々の社会は成り立っているのではなからうか。

イランの石油購入を成功させた場面には、痛快、胸が熱くなった。

百田尚樹

この物語を読んでいると、国岡鐵造という人物の様々な魅力に触れることができる。日本の未来が石油にかかっているという先見の明、どんな苦境に立たされても決して曲げない信念、そこに集まってくる優秀な仲間たち。そんな中でも、彼の労働に対する意識には感服させられる。「賊首(かじしゅ)はならん」という方針のもと、どんなに苦しくても一人の社員も解雇せず、社長自ら身銭を切って、社員に家族を貫き通した愛情。そしてたとえ赤字であろうと、目の前の客のためそして日本社会のために会社が一つになって汗を流す姿。働くことを通じて、目の前の客に喜んでもらう。それにとどまらず、社会に貢献してこそ商売である。どんな時でも貫く、そんな鐵造の信念に、私自身、教員という職業を通じて、人を幸せにすることができ、そして社会で活躍する人材の育成にわずかながら寄与することができることに改めて誇りと喜びを感じることができた。そのような一冊であった。